

平成 25 年度 事務事業マネジメントシート [事後評価]

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	10	02	01	0401	小学校施設維持事業

事業期間	<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返	<input type="checkbox"/> 期間限定	[平成 年度 ~ 平成 年度]
------	---	-------------------------------	-----------------

《事業目的》
教育施設の環境整備

《事業開始の背景》
良好な学習環境と安全・安心な学校運営を図るため、施設の維持管理をする必要がある。

《事業概要》
○施設修繕：学校施設要望等による修繕
○病虫害防除：アメリカシロヒトリ等病虫害防除
○トイレ洋式化（高学年）：和式便器から洋式便器への交換（13校）
○施設長寿命化
八幡小プール改修、キュービクル更新（矢沢小、太田小）
職員室、保健室エアコン設置（矢沢小、太田小）
○非構造部材耐震化事業調査：外装材、内装材、天井材等、非構造部材の耐震調査（18校）

市民参画の有無 [対象外]

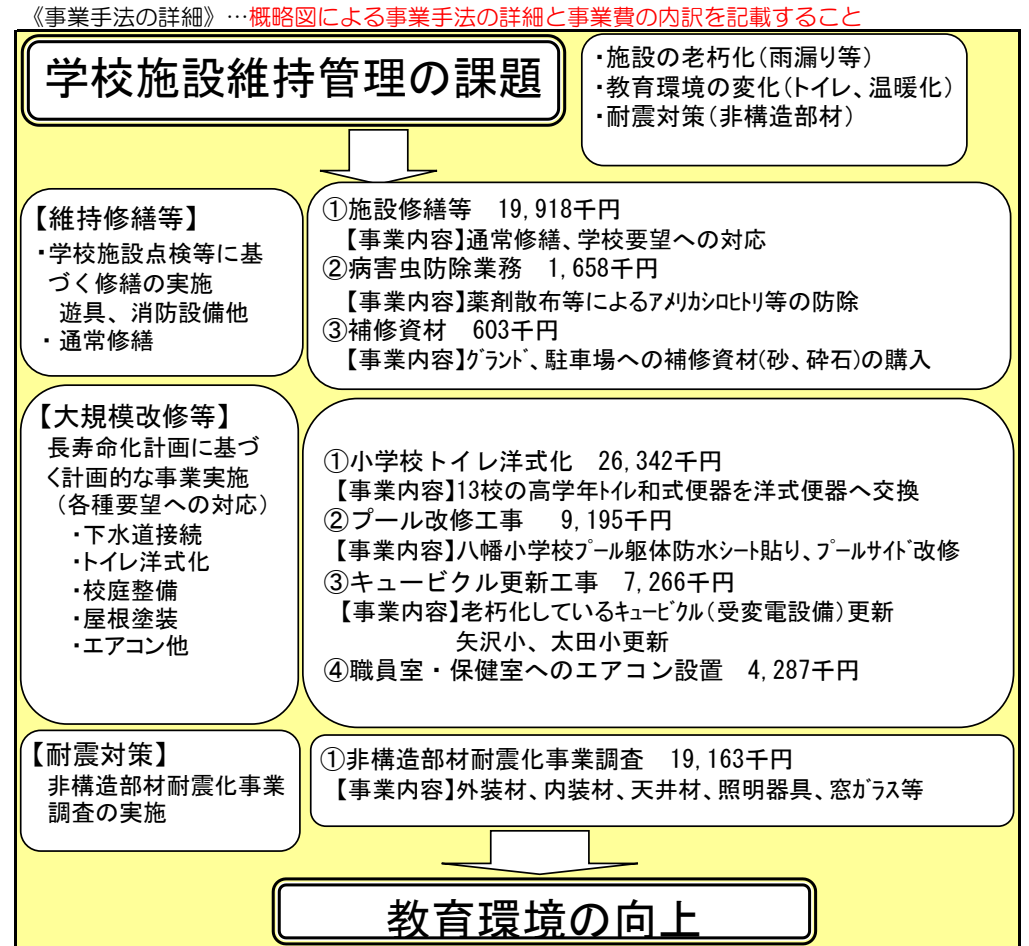
《事業展開の留意事項》

《成果指標》

項目	単位	区分	24年度(実績)	25年度(見込)	26年度(計画)
① 校舎等維持補修工事件数	件	目標	10	8	
		実績	10	8	
②		目標			
		実績			
③		目標			
		実績			

分野	担当部(機関)	担当課(機関)	担当係長	(内線)
人づくり	教育部	教育企画課	菊池洋和	9-30-322

	25年度	当初(現計)	補正	26年度	27年度
事業費	88,432				
財源内訳	国庫支出金	9,581			
	地方債				
	その他				
	一般財源	78,851			



平成 25 年度 事務事業マネジメントシート [事後評価]

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	10	02	01	0401	小学校施設維持事業

総合計画	政策	地域で支える子育てと教育のまちづくり	施策	活力と特色ある学校教育の充実
	4		4-2	
目的	教育施設の環境整備			
対象	小学校施設			
意図	安全・快適に施設利用できる環境を確保する。			

《事業概要》…上記目的を実現するための事業手法を記載すること

○施設修繕：学校施設要望等による修繕
 ○病虫害防除：アメリカシロヒトリ等病虫害防除
 ○トイレ洋式化（高学年）：和式便器から洋式便器への交換（13校）
 ○施設長寿命化
 八幡小プール改修、キュービクル更新（矢沢小、太田小）
 職員室、保健室エアコン設置（矢沢小、太田小）
 ○非構造部材耐震化事業調査：外装材、内装材、天井材等、非構造部材の耐震調査（18校）

市民参画の有無 [対象外]

市民協働の形態 共催 実行委員会・協議会 事業協力・協定
 後援・協賛 補助・助成 委託

活動指標（上記「事業概要」に対応）	単位	区分	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(計画)
① 維持修繕学校数	校	計画	19	19	
		実績	19	19	
② トイレ洋式化率	%	計画	67	89	
		実績	73	89	
③		計画			
		実績			
成果指標（上記「意図」に対応）	単位	区分	24年度(実績)	25年度(見込)	26年度(計画)
① 校舎等維持補修工事件数	件	目標	10	8	
		実績	10	8	
②		目標			
		実績			
③		目標			
		実績			

要因分析

達成度 目標値より高い 概ね目標値どおり 目標値より低い

計画のとおり実施できた。

《環境変化、意見・要望》…環境変化はないか？ 意見や要望が寄せられていないか？

児童が活力ある教育環境の中で学習できるように、施設の維持管理及び長寿命化を図る。

目的妥当性	<p>公共関与の妥当性</p> <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input type="checkbox"/> 妥当でない	・学校設置者である市が関与する必要がある、修繕箇所の把握や業者選定等、他では出来ないことから主体的に取り組む必要がある。
有効性	<p>成果の向上余地</p> <input type="checkbox"/> 向上余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない	・計画的な維持修繕を行っている。
効率性	<p>事業費・人件費の削減余地</p> <input type="checkbox"/> 事業費の削減余地がある <input type="checkbox"/> 人件費の削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> どちらも削減余地がない	・PTA等による奉仕活動や廃校からの機器・資材等の移設、工法の工夫等により限られた予算を有効に活用している。 ・人員においても限られた人数の中で現地等を確認しながら進めており、削減余地はない。
公平性	<p>受益と負担の適正化余地</p> <input type="checkbox"/> 受益機会の見直し余地がある <input type="checkbox"/> 費用負担の見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適正である	・各学校からの要望を基に現地調査を行い、緊急度を見極めながら実施している。

《総合評価》…上記評価結果の総括

・各小学校から要望のあった箇所の修繕、老朽化している施設の改修工事を実施し、教育環境の向上及び施設の長寿命化を図った。
 ・施設維持修繕は、各学校からの施設修繕要望等を踏まえることにより、細部にわたって児童の安全な学習環境が確保されている。
 ・大規模改修（施設長寿命化）については、適切な時期に改修することにより本体施設の長寿命化や維持費の軽減につながるものである。
 ・非構造部材耐震化対策は、文科省が東日本大震災において、天井、照明器具の落下や窓ガラスの飛散により死傷者が出たことを受け、児童が1日の大半を過ごす学校施設の安全対策を急いでいるものである。